

野呂美加さんの講演会①～④までの全文書き起こし

5月8日、福島で行われた野呂美加さん（NPO法人チェルノブイリへのかけはし代表）が反響を呼んでいます。その内容を、ブログ「いつかその手は」（<http://plaza.rakuten.co.jp/dassen/>）の著者が、全文書き起こしてくれました。その内容を、ここにまとめました。ブログの著者によると、「プロジェクトを使っただけの講演ですので、動画を見ることをオススメします。音だけで起こしていますので、わかりにくいところ多々です」とのこと。それにしてもこんな長文を書き起こして下さったこと、心から感謝します。

* * * * *

【野呂美加さんの講演会①】 (<http://www.youtube.com/watch?v=RCDkHQunytE>)

大体チェルノブイリに20回以上行くような運命になっちゃったんですね、いろんな打ち合わせとか、そういうことで。

それで、さっきも車で話してたんですけど、あちらの方がいろいろ私たちにレクチャーして下さったことを、例えば何ミリシーベルトでこうだよとか、そういう話というのはやっぱりどこか他人事で、全部はメモしてたんですよ。大変だね、とかいう思いで聞いてて、それを日本の皆さんにお伝えはしてたんですけど、そのミリシーベルトの話がこんなに自分たちの身近になってくるとは思わなかったんですね。で、その十何年前のものを引っ張り出したり、今、これからちょっと昔のショッキングな映像を見ていただくんですけど、やれていなかったことが、全部、今、ツケになって回ってきてます。

まず、一番、福島で今、何が起きているかというのは、私たちが外から見て、やれやれと思うのは、長崎の〇〇さんというお医者さんがテレビに出て、金看板で、長崎とチェルノブイリの二枚看板でアドバイザーとしてお話ししてるんですね。

で、〇〇さんがどうこうということじゃなくて、こういう役割の人が出てくるということをまず皆さん、わかってほしいんです。

で、私が一番最初にチェルノブイリに行ったときに、「おまえたち日本人のせいでおれたちはひどい目に遭ったんだ」というふうに言われたんですね。私は救援に行ってるのに、いきなり現地の人にすごい文句を言われて、一体日本人が何をしたっていうのよって、こっちは原爆落とされて被曝してる国だから救援しに行ってるのにと思ったら、どうも、広島のお医者さんが来て、みんなが、子どもたちが甲状腺がおかしいと、甲状腺がんが増え始めてるからということで、でも政府は何もしてくれないから、そうしたら、IAEAの調査団がやってきて、広島のお医者さんを連れてきてくれて、これで自分たちはようやく助けてもらえると思ったら、その広島のお医者さんが、この小児がんは、小児甲状腺がんは放射能のせいではありません、あなたの国には海もないのでヨード不足なので、これは風土病ですねっていうふうに言って帰っていったんです。

全く事実と、うそだとわかりますよね、皆さんね。

それで救援活動が、国連の公式見解になったので、救援活動が入らなくなったんです。10年間。10年後に IAEA という調査団がその誤りを認めるまでの間、時間稼ぎしました。

そういうことをやるんですよ。それはなぜかという、世界中の人が、原発に対して不安を持って、騒ぎ始めますよね。ドイツでももうすぐ全廃と決まりましたよね。日本の外のほうが騒いでるんです。まだ私たちは、じゃあ、福島の人、どうしてるのかなって、どうして騒がないのかなと思って見ているけど、世界中の人は、どうして日本人は騒がないんだろうと思っているのと同じで、そういう役割をする人たちがいるっていうことをまずわかってほしいんです。

それが福島でまず行われているんだなというのを私はテレビで見てて思って、そのときに、△△さんって名前出るから言いますが、その人が個人の責任にしちゃうと、その人が悪い人、その悪い△△さんの話で終わっちゃうから、私はあまり名前を言いたくないんですね。そういう役割、金看板を持たされた役割の人はいっぱいいるんです。それで、その人が一体何のためにそういうことを話しているのかなという、どこからお金が出てやってきているのかなとか、そういう10年後、20年後、何かが起こっても、この人はまだその役職に在籍しているかどうか、年齢も確かめて聞いてほしいんです。

△△さんというのはいもう退職間近の人だったんですね。それで、その人は叩いたらいろいろほりりのお出での人で、日本の公害訴訟、全部厚生省側と企業側と一緒にタッグマッチになって出てきたお医者さんなんです。で、全部同じ論理でいったんですね。カドミウム、イタイタイ病とか、水俣病とか、全部の公害訴訟にその△△さんがかかわっていて、全部栄養不足のせいですって言ってきて、裁判を10年、20年引き延ばしてくるんですね。そうすると、10年、20年、引き延ばされたら、何が起こるかという、被害者の方はもう亡くなったり、病気ですので闘う気力もなくなっていく、そういうことをやってきた人たちなんです。

だから、放射能の被害でがんというふうに私たちは直接的に思っていますけど、チェルノブイリの子どもたちもたくさんがんになってますけど、それを放射能のせいだと認知されるということはすごい難しいことなんです。医学的に。もう不可能です。じゃあ、あの〇〇先生を相手に、皆さんがあの人を信じたせいで、子どもとか私のがんになりました、乳がんになりました、何になりましたとって申し立てても、勝てるわけがないんです。そういうことをわかってやってる人たちがいるということをまず頭に入れてほしいんですね。

で、それではすごいショッキングな話とか、いっぱいあります。だけど、絶対私が思うのは、いい社会にバージョンアップしていきましょうということなんです。そういう人と人が傷つけ合う社会じゃなくて、助け合う社会にしていきましょうということをやっぱり言いたいんですね、

このチェルノブイリ、私たちが救援にかかわって今年で20回目で、子どもたちを呼ぶのをすごく楽しみにしてたんですけど、今年は呼ぶのをやめました。やっぱりとても向こうの親が、こっちには出せない、まだ事故も収まってないし、死ぬほど嫌だと、放射能は、親も保養に出てる世代で、今、2世になってきてますので、それもあるし、まずは福島の子どもたちを何とかしなくちゃいけないということで、今年はチェルノブイリの子どもたちの活動は休止させていただきました。

じゃ、ちょっとこの△△さんの、△△さん個人を責めるんじゃなくて、そういうまず社会的な地位、役割ですね、地位とか名誉のある人を使って、どういうことをやっているかということと、あと、病気の子どもたちの顔が出てきます。その顔にクマが入ります。そのクマは、私たちおばさんたちが疲れたときに入るクマとは全然違うので、ちょっと目元をよくごらんになっていただけたらと思います。

(広河隆一さんと櫻井よしこさんの番組の動画。おそらくこのシリーズ。「チェルノブイリ 特集 第1回 潜入！最悪汚染ゾーン (93.5)」<http://youtu.be/gWrfcGIItxk>)

[櫻井] 広河隆一さんに今夜もおいでいただきました。こんばんは、広河さん。今夜は？

[広河] 実際に住民の体に何が起きているのかを直に。特に子どもたちがどういう目に遭っているのか、それを見てください。

[ナレーター] 事故から7年が過ぎました。昔のこととして忘れてしまうのに十分長い年月です。しかし、事故後何年もたってから本当に恐ろしいことが始まりました。

事故から1週間の間に13万5000人の住民が急に危険を告げられて、慌てて家を離れました。まさかその後、ずっと家に帰れないとは考えてもいませんでした。

放射能は現在、表土から20センチまでのところにたまり、ゆっくりと地中におりています。

被災者の数の推計、原発関係者と消防士1000人、事故処理の作業員60万人、汚染地の住人550万人、当局の発表、死者30人。

地中20センチにたまった放射能は植物の根から吸い上げられ、人間や動物の体に蓄積されていきます。

放射能障害の潜伏期間はそろそろ終わり、白血病と甲状腺がんの形で牙をむき始めました。

[広河] 私は去年もこの病院を取材し、入院している子どもたちを撮影しました。しかし、その子たちに1人も会うことはできませんでした。大半は亡くなっていたのです。

白血病の治療には、何段階もあります。その段階に応じて必要な薬があります。患者が突然増えたので、薬の量が追いつきません。薬が切れると、子どもの容態は急激に悪化します。

去年の9月に撮影した元気なころ、これは入院したころですか。

子どものこの子は14歳です。私が撮影した次の日、亡くなりました。

[ナレーター] 3年前、国際原子力機関（IAEA）の調査団が汚染地を訪れました。代表の△△委員長は、住民の健康障害は全くないと発表しました。

[広河] この子は5歳、甲状腺がんです。自分の身に何が起きているのか全く知らないまま、手術室に連れていかれます。

医学の常識では、甲状腺がんは大人の病気です。子どもがかかる率は50万人に1人とされています。しかし、チェルノブイリ周辺では、事故後4年を過ぎてから子どもの甲状腺がんは爆発的に増え始めました。

のどにレーザーメスが入られ、白い煙が上がります。

[ナレーター] 原発の北のホイニキ（？）地区では350人中27人の子どもが要注意と診断されました。そのうち甲状腺がんは2割に上ると見られ、平均発病率の7800倍です。

甲状腺に続いて、乳がん、骨のがん、そして白血病の爆発的増加の時期が来るという医師の予言は、現実のものとなり始めています。

(野呂解説 目の下にこういうふうにくマが入ってくるんですね)

[櫻井] 広河さん、こうして見ますと、国際原子力機関が住民の健康に問題ないと発表したのは一体何だったんでしょうかね。

[広河] VTRの中にも名前が出てましたけども、調査団長は△△さんといって、広島 of 学者なんですね。国連の機関、しかも広島 of 医学者がリーダーになったから、公正な調査があると信じていたのに、安全だと発表したの、現地の人々はあ然としていました。

[櫻井] だから、調査団の人たちは、現地の状況を見たんですか。

[広河] 現地のお医者さんたちの話では、汚染のひどいところには入ってないそうなんです。しかも、遠くから食料を持参して、現地のを口にしないで、それでいて安全宣言をしたことですごい怒ってたんですね。怖くて、それで食べられないんだったら危険だと言うべきなんです。

[櫻井] 国際原子力機関の信用性そのものが深刻に問われているわけですね。

[広河] はい。ちょうど旧ソ連の原子力産業とアメリカをはじめとする原子力産業がビジネスの取り引きを始めたころから、チェルノブイリの被害を小さく見せることで利害が一致したんじゃないかという声があります。

[櫻井] わかりました。さて、このチェルノブイリ報告、次回は汚染地域の生活を追います。

(プロジェクター終了)

ちょっと子どもさんが手術してたりとか、ショッキングな映像で、私も母親としてこういう映像を見るとちょっと悲しくなっちゃうんですけども、私たちが経験したこととか、知った事実だけをお伝えしていきます。それを本当に共有していただいて、今、私たちが子どもたちに対して何をしたいかわからなくていいかとか考える一助になればいいかなと思います。

これはチェルノブイリ原発事故ですね。この間もテレビでありましたように、石棺とって後で覆ったものがもう大分さびてきて、何とかしなくちゃいけないということを言っています。

これは事故後7年後に30キロゾーンの立入禁止ですね。私たちが救援に入っているベラルーシ共和国というのは、ウクライナから国境で10キロぐらいしか離れてないんですね。で、風下にあって、死の灰の70%がベラルーシに入りました。

ちょうど見えるでしょうか。0.232って書いてあるんですけど、一番このところですね。この0に当たるところが1マイクロシーベルトの位なので、0.232マイクロシーベルトと書いているんです。事故から7年後の30キロゾーンの立入禁止区域ということで、ここはアスファルトもありますし、アスファルトの上の放射能というのは水で流されていくので、少しは自然的な除染になってるんですけど、ここのカウンターが今、0.25マイクロシーベルトですね。

これがさっき言ったベラルーシの汚染地図なんですけれども、ここにチェルノブイリ原発がありまして、ここ、こっちが全部ウクライナ共和国で、ちょうど風下にあったんですね。

今、飯舘村が風下にあったということで騒いでるんですけども、昨日発表された朝日の地図も後で出ると思うんですけど、放射能というのは風と水によって動くんですね。だから、これはベラルーシ共和国の地図なんですけど、ベラルーシ共和国というのは四方を陸で囲まれていまして、海も山もないんです。この地図の黄色とオレンジと紫、緑以外は全部放射能です。ですので、ここが30キ

ロゾン立入禁止です。それから、100キロ、200キロ、300キロ、400キロですね。で、こういう汚染地がホットスポットで離れたところに発見されています。

これ、最初はもちろん、近くのところを政府の調査団が入ってしてるんですけど、こういう飛び地になってるところは、子どもの体が調子悪くなって、調査団が入って、一体何だ、どういうことなんだということでもわかった汚染地なんですね。

で、遠くと近くのストロンチウムの粒子のあり方が違う。だから、遠くに飛んだストロンチウムのほうが粒子が細かくて、植物に吸収されやすく、セシウムも同じですね。風に乗って飛んでいく、で、近くには重たい粒子の形のストロンチウムが落ちていて、意外と植物に吸収されにくかったりとかするわけですね。

そうすると、こっちのほうはもう全然ノーマークなわけです。うちら関係ないわって、そう思ってたたら、子どもたちの小児甲状腺がんが起きたり、いろんながんが増えて、一体どうしたんだということでも調査したら、汚染されてた、まさかという。ですから、ホットスポットというのは、ここにもちょこちょこ飛び地であるんですけども、すごく気をつけなくちゃいけないところですね。

私たちが救援には言ってたのは大体この150キロメートル地点のところにも救援に入ってます。近くても、ここら辺の人はみんな大体散り散りに移住していて、老人世帯しかほとんど残ってなくて、救援の先生もいないようなところは救援には入れないということで、大体100キロのこのゾーンはそういう形で救援になかなか入りにくかったですね。

ここら辺のゴメリ州という大きい市と町があるところを救援に入ってます。

これはこの間やってた浜岡原発ですね。総理が止めるっていても電力会社が止めないといえど止めない権利があるんだと思ってびっくりしたんですけども、チェルノブイリと浜岡原発を重ねてみますと、もしも浜岡原発に事故が起こった場合は、もう日本の半分以上が失われてしまうというぐらい危険な、しかも敷地の中に断層があるということで、どうしてこういうものがつくれたのか、謎なんですね。やっぱりつくりたい人たちの気持ちにかかったら、断層も消すことも可能なんですね。地震起こった時期をずっと前までさかのぼらないで、つい最近までの調査で地震がなければOKとか、いかようにでもそういう学会をコントロールすることは可能です。

これは北海道にさっきのベラルーシの地図を重ねてみると、どのぐらいの広さ、放射能が飛んでったかというのがわかるかなとって、北海道の人のためにもつくったんですけど、札幌市は完璧100キロ圏内に入ってしまったんですね。で、福島市とか郡山市も大体このような状態になってるんじゃないかと思います。

ですから、100キロ圏内の場合は特にこういう放射能検査を徹底して、汚染地をさっきのように地図をつくっていくということがとても大事です。

あの地図をつくるまでに3年間、公表されるまでに3年間かかりました。農民の間には隠されてました。汚染地域の人たちにですね。

最初、事故が起こったときにこの地域の人たちがここら辺にたくさん移住させられました。それで、移住した後で、何も連絡なかったし、チェルノブイリのせいだとも何も説明されなくてみんな移住させられたんですね。それで、3年たってから、実はこういうふうに汚染されてますよということが発表されたんです。それで、何だったのという、また汚染地だったの、私たちは、みたいなことがあったんですね。

これは、最初に駆けつけて、何があったんだかわからないけど、消防士さんが招集されて行って、とりあえず原発で火事だということで行ったら なんて知らないで消火させられたことで、一番先に亡くなった消防士さんの像なんですけど。

さっきゾーンではかったのは30キロの立入禁止ですけど、この町は31キロ、32キロのところにある町なんです。町の中の大体数値はさっき言った0.23マイクロシーベルトぐらいで、ほとんどの、半分以上の人は移住しましたね。やっぱり近かったの、子どものある世帯はみんな移住しました。

ただ、途中で移住政策を、許容範囲を下げ、基準値を下げて、移住政策をやめました。さっき言ったIAEAが、もういいんじゃない、そんなことをしなくても、みたいな、大丈夫だよ、みたいな宣言を出しちゃったんで、今の福島と同じ状態になったんですね。

というのは、もうチェルノブイリの修復のための国家予算だけで最初のころ、2割国家予算、旧ソ連の崩壊前のあの大きい国家予算で2割かかったそうなんです。で、移住するということはそれだけものすごいお金がかかることなんです。毎年それだけの国家予算をチェルノブイリのそういう移住だとか、救援活動とかに使うということは国家の屋台骨を揺るがして、旧ソ連の解体につながりました。

それで、これも嫌な写真なんですけれども、これはチェルノブイリの消防士さんたちの、チェルノブイリ博物館ってあるんですね。それで、やっぱり物が自由に言えない国の中で、どれだけの人が犠牲になったかとか、そういうふうには書けないんですね。だけど、犠牲者は消防士さん、急性症状で亡くなった28人だけですよとか、それからチェルノブイリ20年たったときに亡くなったのは4000人だけですよってIAEAが最初、言ったりとか、この期に及んでまだそんなこと言うのかと思うようなことがあるわけですね。

で、こういうチェルノブイリ博物館の人たちがどういうふう考えたかという、私は芸術ってすごいなと思ったんですけど、これはやっぱりさすがに隠せない、これは亡くなった消防士さんたちの写真をいっぱい貼ってありました。これは数えて、長崎のもう一人の先生もいるでしょう。ここへ連れてきて、内閣省(?)のホームページに書いてるんですよ。急性症状で亡くなったのは29人だけでどうのこうのって言ってるんですけど、数えてください。もう見るだけで、絶対犠牲になった人を隠さないように頑張ったんですね。何も書いてないんですけど、わかるじゃないですか。

私たちの、この消防士さんたちの家族とか、この1枚の写真の奥にどれだけの人生があったのかなと、29人だという、じゃあ、少ないとか何とか以前に、その29の命に対しての……（動画終了）

【野呂美加さんの講演会②】 (<http://www.youtube.com/watch?v=gUTlMdX4brc>)

……なるんですけれども、そういう汚染された家からいろんなものを盗んでく人もいるので、そうすると、その物を持ち出すと、その汚染がまた広がっていくわけですね。で、それを防止するために最初はそういうことをやってみました。

これはもうそういう手が回らなくなって、放置された廃村ですね。

大体どのぐらいから廃村になるかというと、0.4マイクロから0.5マイクロで廃村になってる村がいっぱいありました。

皆さん、えー、そんな程度でって思うかもしれないけど、子どもたちが具合悪くなって、それで政府の調査団がやってきて、それで廃村という形ですね。子どもの体をカウンターがわりにしてつぶしていきました。

例えば、このホットスポットというのは、150キロ、200キロ離れた地域でも、近い地域でもあるんですけど、隣の村は大丈夫なのにこっちの村はものすごく汚染されてるとかいうことは、やっぱり雨とか風の関係で起こってきます。

だから、現在、飯舘村がすごく強いんだけど、その地域の横の隣は大丈夫だといってるのは確かにそういうことなんです。

ただ、食べ物の汚染は防ぎ切れないので、そこら辺はどうなのかなと思います。

これは、事故のとき30キロ圏内に住んでた家族なんですけれども、まだこのお姉ちゃんが3歳のときに事故が起こって、ここだけは旧ソ連を評価できるかなと思ったのは、事故の後、急に3日分の食べ物と着替えを持って集まりなさいみたいな感じで言われて、バスに乗っけられて、旧ソ連ですから何の自由もないので、何だかよくわからないけど、3日たったら戻ってくるんだからってバスに乗っけられて、家族ごと別の村にぼとんと落とされた。150キロぐらい離れたところに。

で、その後、二度と戻ることはできなかった。でも、そういう形で無理無理引き離さない限り、今、日本で起こっていることも同じです。いつ帰れるんだろう、帰りたいという思いが断ちきれないし、そういうことを許さない国だったので、政府のやることに一切反抗できない国でしたし、3年たってから、事故があって、汚染されてて、また汚染されたところに移されたんだということがわかった感じですね。

で、このお姉ちゃんは後でかけはし（野呂さんのNPO）に保養に来て、大きくなってお医者さんになりました。いところが小児甲状腺がんになってるのを見て、自分もお医者さんになろうって決めて。

これは、この先生に最初、私も汚染地に入ったときに、「日本人は何てことしてくれたんだ」とこの先生に涙ながらにすごい噛みつかれて、その先生の心の痛みというか、一体何があったんだということがわかったときに、まあ、申し訳なくて、しかも、人の民族のところまで行って何てことしでかしてくれたんだっていう、申し訳ないっていう、取り返しのつかないことをしてくれたと。その10年間救援入らなかったというのはとっても痛かったんですね。

それで、国連の中の力関係でいいますと、WHOは国連のIAEAの許可なしに勝手に放射能のことを発表してはいけないということになってるそうです。

ですから、私たちが非汚染の食料、子どもたちに汚染されていないベビーフードを救援物資で入れてくれということで、ユニセフとか、そういうところに、当時、世界中の救援団体がお願いしたんですけども、被害は出てないので救援できないという、そういう建前主義ですね。それで子どもたちの救援が本当に遅れました。

まず最初に、ウラジミール先生は体育の先生だったので、何かおかしいぞと、子どもたちに、この地域はチェルノブイリから150キロから200キロのエリアの地域なんですけど、その事故のことは先生は何も知らないわけですよ。

でも、何か子どもたちがおかしいぞというのは、子どもの顔色がすごく悪い、で、これは写真だからわかりにくいんですけど、この先生の顔色とこっちの子どもの顔色と全然違うと思うんですよ。同じ白人でもやっぱり元気だとこんな感じなんです。これだと、もう、向こう風にいうと、顔色悪いというか、ねずみ色というか、まだちょっと保養から帰ってほっぺた赤い部分もあるんですけども、目の下にクマが入って、顔色が悪くなると。

それから、走っても走り続けられなくなるんで、サッカーなんか全然できないですね。5分か10分ぐらいしか走れなくなって、特に心臓が痛い、痛いってみんな言い出します。

詳しい体の症状は後でもうちょっと説明するんですけど、それで先生は、おかしいなということで、日本人が来てくれたから、どうもその事故があったらしいということで、すごい助けてもらえると思ったんですね。

で、もう1つ重大なことは、何が起こっていたかという、さっきのこれは埋め立てられた村のすぐ隣ですね、道を挟んで。ここで小麦が作られているんです。この家は、もちろん埋め立てなきゃいけないんですけど、もう経済的に力尽きて、これは残してるんですね。

で、残してると何が起こるかという、ドアをはぎ取ったり、窓ガラスをはぎ取ったりして、それをよそに持って行って売ったりする人がいるわけですね。自分のうちの建築に使ったり。ものすごい高濃度の汚染がまた広がっていくんです。

で、ここで作っている小麦は何のために作っているかという、子どもたちの学校給食用に作ります。安い値段で売られていきます。

これはベラルーシの人たちが最初、何で、子どもたちをお預かりして、1カ月保養させると、ものすごい元気になるんですね。で、何で移住しないんだらうって、子どもたちがこんなに汚染地にいるだけで具合悪くなるのに、親は何をやっているんだということで、それで私たちはよくベラルーシに通うようになったんですけども、行ってみると、ほとんど経済的に余力のある人はもう移住しましたね。最初の10年間でほとんどみんな自力で移住しました。

で、残っているのはほとんど農民です。知識階層、学校の先生とか、看護婦さんとか、何か職業ある人はよそに行っても食べられるので、何とかお願いして自主的に移動していきました。で、そういう障がい者とかの家庭であるとか、子だくさんだとか、農業関係者だけが残ってたんですね。そうすると、もう動けない、そういう人たちは。

それで、コルホーズというのは、集団農場、今でも旧ソ連が崩壊してもその体制は維持されてるんですけど、集団農場に属すると、こういう家を1軒もらえるんですね。1年間家族が食べていけるだけの畑もくっついてくるんです。もらえるとんでも無料で貸し出されてるような状態ですけど、そうすると、まきも自給自足、食べ物も自給自足で、家もあれば、人間、お金なくても生きていけるんですよ。

私も行って、価値観がぐちゃぐちゃに壊れました。自分たちで家を建ててローン組んでとか、そういうのもばからしいとも思ったし、自給自足して、北海道よりも緯度が上のところですからね、食べていけるんだっていうのをまず、もう何が何だか、でも、そこが放射能で汚染されたら駄目だしとか、価値観がもうぐちゃぐちゃになったんですね。

もう一瞬です。汚染されたら一瞬でも全部無価値になっちゃってるんです。みんな捨てて逃げさせられたのを見たときに、もうその今までの価値観が。だから、このまきも汚染されてる、それから、この畑も汚染されてる。だから、全部生態系の中に入ってきちゃうんです。

これは自給自足で、こういう料理、日本では絶対ないんですけど、これはトマトの塩漬けという料理なんですね。すごいロシアの人の知恵なんですけど、冬はもうマイナス30度、40度なので、野菜は買うわけにはいかないんです。お金はないから。スーパーマーケットなんかにも当時は入ってきませんでしたので、これは全部夏の間にとれたトマトを塩漬けして冬の間、食べるんですね。これもリンゴを塩漬けして食べるわけです。

そうすると、冬でも野菜がいっぱいあって、冬はすごいマイナス30度、40度になってて、10、11、12、1、2、3、4は働かないんですよ、ほとんど。朝、コルホーズの乳搾り行って帰ってきたら、もう何もなくていいという、どんだけ豊かな生活なんだって。

だから、コルホーズの給料が出ないとか、当時、旧ソ連が崩壊したときにみんなデモしてるんですけど、すごいでぶでぶに太ってて(笑)、どんだけ現金生活してないんだという感じなんですけど、これだけ1軒の家で食物を冬の間分、保存するこれは瓶なんですけど、これだけお母さんね、秋口に全部作り終えて、自然の自給自足でずっとやってきた民族なんです。

これは何かというと、またろくなことしないんだ。お父さんがこれはウォッカを自家製でまたこれも1年分保存して、冬の間、飲むんですよ。作るんです。

で、私は、ウォッカの話はちょっとそれちゃうんですけど、お金の価値が下がって本当に大変なときに移住したお母さんが、どうしても移住させられたアパートのどっかを直さなきゃいけないというのにお金がない。そうしたら、田舎でウォッカを醸造する技術を身につけてるから、ミルクのタンクあるんですけど、それにウォッカを醸造して、大工さんにそれで払うという交渉をしたら、大工さんが、じゃあ、やるって言って。それほどお母さんたちが子どもたちを育て上げるのに、あの手この手でやってるのを見たときに、私は本当にベラルーシの人たちってすごいなって思ったんですよ。

これは、放射能というのは、この間、水道の中に入ってるのかって言うけど、川も海も汚れて、今度、川底に沈んでいきます。だから、改定からもセシウムが出たというのはそういうことなんです。上にあるものは下に落ちていきます。

だから、川に流れてって、これは湖なんですけど、水が舞い上がると同時にまた放射能も舞い上がって、これは保養で帰った子どもたちなんですけど(湖で遊ぶ写真)、すごく元気にして帰ったのにこんな放射能にまみれて遊んでるんだと思ったら、すごいぞっとしたんですけどね。

ここもさっき言ったものすごい高汚染の森なんです。ですので、ここら辺一体もものすごい汚染地帯です。

やっぱり移住することができなかつたんですね。みんな農民ばかりで、そこで汚染されたものを食べて、汚染された環境の中でこうやって生きていくしかないという感じです。

これは、向こうの農村というのは、全部その、3軒分ぐらいのアヒルなんです。鶏もそうなんですけど、みんな放し飼いで飼ってるんです。自由に村の中を行き来してて、こういう水たまりとか、こういう芝生、それから木の根元なんかを放射能をはかると、ものすごい高い数値が出てきます。これは水が放射能を運びますので。

で、この母親の胎内の放射能を子どもに移していきます。栄養と勘違いして。だから、現地のお母さんは第一子を産むと、胎内の放射能を子どもに渡すことができるので、お母さんはすごく元気がよくなって、第一子はすごい病気だらけで生まれてくると言われています。

これはうちで保養した子どもですね。大体チェルノブイリから150キロぐらいの汚染された村なんですけれども、大体0.16マイクロぐらいです。

やっぱりここに全部放射能が入ってる上でほほえんでるんですけど、で、またこれを食べた牛がまた汚染されたミルクを作るので、それで、向こうではミルクをほとんど飲みませんね、子どもたちは。子どもには飲ませてないです。加工用に出してます。汚染地から。

で、おれたちはもう農業を継いでくぞみみたいな感じなんですけど、やっぱり生態系の頂点にいらつて人間なんですよね。だから、いろんな動物の口を経て、最後は人間のところに入ってくるとか、本当にこういう自然豊かな中で子どもたちは育ってます。

で、放射能というのは色も味もおいもないので、わかりません。若干鉄の味するという人はいますけど、それは相当濃い味ですね。

これはさっき言ったまきを燃やしているところなんですけど、ペチカというロシアの暖炉なんですけど、この裏側で調理ができるようになってる、かまどみたいになってて、で、ここでちょっと子どもたちが寝たりするベッドがあるんですけど、ここはまきをたくと、木の中に放射能が入ってるので、「小さな原子炉」って呼ばれてるんですね。たくと、放射能値がくくくっと上がるんですって。本当かなと思ってやったら、やっぱり0.16くらいになったりするんですね。

これは、さっき言ってた7000カウント、1万カウントの森で、私たちが行くからということで、すぐ隣の森で4時間かけて摘んでましたよ、待ってましたよみみたいな感じで言われて、えっ、さっきはかってきたあの森で、みみたいな感じだったですね。でも、4時間そこにいるということはものすごい被曝で、ありがたいと思って食べたんですけど、本当においしかったです。味もおいも何もしないんですね。何の遜色も起こらないという。本当につらかったですね。子どもたちがこれを食べてるんだなと思うとね。

で、こういう汚染地帯がありますよね。こういうところに入っちゃいけないというふうに、さっきの放射能看板とか、こういう放射能看板があつて、遊んじゃいけないとか、入っちゃいけないということ言われていて、すごい最初は国民はぶーぶー言ってたんですね。キノコ狩りもできない、ベリー狩りもできないなんてどういうことだとか、入れさせてくれとか。

でも、とてもじゃないほどの高濃度に汚染されてるわけですから、そうすると、やっぱり子どもたちというのは、そんなことわからないわけで、どうしても入って行って、自分でおなかがいいたら食べたりとかするわけです。それが徹底されてないと、言うことを聞いた子と聞いてない子では体内の汚染値も全然違いますし。

これは加藤登紀子さんの通訳を後にされたトクちゃんという男の子なんですけど、ウクライナに語学留学してて、私たちがベラルーシに行くときいつも通訳で駆けつけてくれてたんですね。

で、トクちゃんが、野呂さん、このカウンター、借りてっていい？って帰るときに言ったんです。で、また来年野呂さんたち来るときに返すからって言ったから、どうするの？って言ったら、自分のキエフに持って帰って、アパートの放射能値知りたいんだって言ったんですね。で、はからないほうがいいんじゃないのって言ったんですね。

放射能の勝てる人と勝てない人というのは、無茶してもだめなんですね。無茶も駄目なんだけど、怖がりすぎても駄目なんですね。もちろん、正しい知識で防衛していかなきゃいけないんですけど、やっぱり、何ていうかしら、最後は、私、トクちゃんもそうだったと思います。全部もう自分の寿命は、私も行くときはものすごい怖いので、寿命は全部天に預けたというふうを考えて、自分たちの体のことは全部天道様に預けました、寿命のことは一切考えませんという形で入ってるんですね。そうでなければ、とてもじゃないけど、怖くて入れないです。

今、原発のそういう止めに入ってる方たちのために千羽鶴を折ろうということで折って、この間、消防庁さんと自衛隊さんに届けてきたんですけど、消防庁さんなんか、本当に喜んでいただいて、これから立川から出発するという消防士さんたちが待っていてくださって、本当に励みになるって、最初に消火に言った消防士さんの隊長さんが、泣いて出迎えてくださったんです。名もない北海道からの人間が段ボール持って千羽鶴持ってたわけですから、普通だったら、玄関で受付の人がという感じなんですけど、ちょうどその日、国の防災会議があったんですけど、立川の基地のナンバー2の人が私たちの到着するのをわざわざ待っていてくださって、隊員の励みになるから、本当にありがとうって言ってくださったんです。

それほど放射能の中に入っていくというのはものすごい怖いことなんですね。それをあえてやってくださっているということに関して、本当に私たちは怖い気持ちがわかるので、そう言いました。

このトクちゃんに関しては、次の年、会ったときに、トクちゃん、部屋のアパートどうだった？って言ったら、0.16マイクロシーベルトありましたとあって、高いねって言ったんですね。したらトクちゃんも、うん、高い。

で、高いねというのは、私が福島でこういう話をすることになると思わなかったんですけどでも、チェルノブイリの汚染された村で、0.08ぐらいあったら、高いなと思いました。今、ここ、0.25ですよ。室内で。高いと思います。

それぐらい子どもたちというのは、大人はそんなにすぐに影響が出てこないんです。でも、私たちは6年とか7年たってから入っていった、放置されて事態が悪化されたときに入っていったんですけども、子どもたちは、田舎のカウントですよ。0.08とか、0.09とかもあったら、もうみんな心臓痛いとか、もうみんな入退院繰り返したりしてたんです。

そういう汚染地域に入っても、そういう数値です。で、廃村に行ったら0.4とか、0.5です。それで、普通の室内で0.16出るということはあんまりなかったんです。

高いと思います。今、この福島で起こっていることは、これはもしかしたら事故の直後だから高いのかもしれないんだけど、でも、高い間だけでも子どもたちを移してあげてほしいんです。本当にそう思います。

お医者さんが、あんな〇〇先生なんか、何もこんなところ行ってないですから。病院に連れてこられた患者さんをちょちょっと見て、あと、ゴメリ大学の学生を長崎に呼んでやっていますから、こうやってはかったわけじゃないと思いますよ。おれははかったとかいって反論されたら困るな。

トクちゃんは、四、五年前に白血病で亡くなりました。とても難しい型のね。で、加藤登紀子さんの通訳もされてて、彼女も追悼コンサートなんかをやっていたらしいです。

がんの子どもも増えてないというから、〇〇先生に、何でそんなうそばかりつくのって思って、この写真を持ってきて、あんまりこういう写真を見せたくないんですよね。そういうふうになるっていうふうに思い込んじゃうとよくないから。そういう危険性はあるけど、私はならないって思ってほしいんですよね。

だけど、このお母さんの痛みは絶対知ってほしい。

ここの小児甲状腺がんの専門病院をつくったんですよ、ドイツでプレゼントしたんですよ、ベラルーシに。そこにいっぱいがんの子どもたちがいます。

何でがんの子どもは増えてないかというと、それを放射線のせいでもがんになったというふうに因果関係をつけないからです。がんの子どもはいっぱいいますよ。つけられないんです、現代の医学では。

で、こういう農村地帯に残っている家族に何が起こるかという、ご主人が病気でぱったり亡くなります。これはお母さんが残されて、お母さんはどうしていいかわかんなくて、これはアルコール中毒になっちゃうんですね。で、もう子どもたちを育てられなくて、全部のお金をアルコールにつぎ込んで、この家、何でも売ってアルコールにしちゃうんで、この家はこの汚いベッド2つと子どもしかいなかったんです、行ったとき。それで、子どもたちはご飯も食べてないから、それは言葉がいいかどうかかわかんないですけど、知的障害児になって、施設に入れられちゃいました。

ここの家族も、四、五人ぐらいあと子どもがいるんですね。ご主人がいないけど、子どもが増えていって、ますます移住できなくなっちゃうという。

こういう家の子どもを保養で預かると、ものすごい大変です。全然しつけができてないので、靴を脱ぐとか、風呂に入るとか、身繕いから何からもう何か全然できないんで、最初はどういう子どもが来たんだということで、それもあって私たちも最初、入ってったんですね。何で移住しないのかということと、どういう、すごいわがままだから、高級官僚の子どもなんじゃないかということで行ったら、高級官僚どころか、全然汚染地にそんな人は残ってないんですよ、高級官僚は。共産主義の幹部というのは真っ先に逃げたと言っていました。シャラポワさんも、シャラポワさんを妊娠してるときにお母さんがチェルノブイリがあったとわかってロシアに逃げて、結局、偉い人だったんですね、そういう情報が最初に入るということは何。だから、そういう逃げれる人というのは。偉い人というのはもうどんどん逃げちゃった後なんですね。

汚染地域に残っていると、何となく精神的健康が保てなくなってくるんですね。それでふるさとがどんどん崩れてっちゃう。

で、そういう人たちがこういうところに都会に強制移住させられるんですけど、ああいう農村の暮らししてる人たちがこういう団地にいきなり連れてこられても、今度、こっちはお金で何でも買う生活に入るんですね。そうすると、もう全然生活できなくて、汚染地に帰りたいとか、それから食べ物を買うお金がないので汚染地から食べ物を送ってもらったりとか、ものすごい苦しい生活を送っていました。

例えば、汚染された体にはすごいビタミンが必要で、子どもにフルーツを買ってあげたいと思っても、1袋のオレンジを買うと、1カ月の給料がなくなっちゃうよな、そういう厳しい生活を皆さんされてました。

で、これはお医者さんです。事故当時、子どもだった人が、今、大人になってるわけです。チェルノブイリから25年たって。それで、心臓病で突然死する人がすごい増えています。それを放射能のせいとは言えませんというふうに言ってるお医者さんなんですね。

それも、すべての病気を放射能と関連づけてしゃべることは禁止するということが通達されたんです。だから、お医者さんの中でその因果関係を発表することは職を失うことになっちゃうわけですね。カンダジャフスキ？さんという……（動画終了）

【野呂美加さんの講演会③】 (<http://www.youtube.com/watch?v=gUTIMdX4brC>)

……話を聞いたときに、1ミリシーベルト、自然放射線のバックグラウンドの2倍が限界かなとおっしゃってました。減るものは低いほうがいい。わかります？ バックグラウンドってわかります？

バックグラウンドというのは、この事故が起こる前にあった放射能ですね。自然界から放射能が来てるわけです、宇宙線とか。その放射線量で私たちはぎりぎりなんですよ、本当は。で、頑張っても2倍。それ以上はもうだんだん厳しくなるなど。

その被害が出てくるのは後ですから、それを放射能のせいだと結びつけるのは難しいですから、子どもたちを早く安全な場所へ移すということ以外、まず手はないんですね。

これは因果関係を科学的にあれすることは難しいので、現地の、ここらのお医者さんたちは頑張って調べています。これは出生率です。これは死亡率です。村の。こういう形で村のなにがしかを表現したいんですけども、ここが86年のチェルノブイリですね。この後、こういうふうに影響が出てますよということで、これは現地のお医者さんが調べたやつです。

甲状腺障害というのは何が起こるかという、この子は7歳なんだけど、5歳のときから身長が伸びなくなってしまったとか、それから、この子は女の子なんですけれども、男の子みたいな特徴があらわれてきちゃったと。

甲状腺というのはいろんなそういう成長ホルモンを司るところなので、何が起こるかわからないんですね。だから、がんとか、そういうところに行き着くまでに無数の病気がたくさんあります。そんな単純なことじゃないんですね。

これはうちで保養した子が徴兵に行って、警備で頑張ってますみたいな写真を撮って送ってくれたんですけども、チェルノブイリ20年たって、事故後20年のデータなんですけれども、事故前、健康男子徴兵率は80%です。20%はやっぱり何らかの障害だとか、病気とかで徴兵に行けないと。

チェルノブイリ事故後20年たって、健康で徴兵に行ける人は40%になりました。残り30%が障害とか病気で徴兵に行けない、それから、あと40%が条件付き徴兵、中間ですね。(おや? 数字が合いません) それだけ健康な男の子が減ってしまったということですね。

4割しかいないんです。国民の4割しか。汚染されてる地域は国土の4分の1しか汚染されてないんですよ。それなのに、健康男子が3分の1に減っちゃったというのは、その影響ですね。それが汚染されてない地域にまで及んでるということです。

ここからちょっと詳しく説明します。

これは、現地のお母さんたちの100人以上、もう全部徹底して聞きました。お宅の子ども症状は何ですかという、こういうものです。それで、ほとんどみんな共通してます。これはあくまでも五、六年放置されてた子どもの、5年間汚染されてたものを食べ続けた子どもたちのお話です。

子どもたちはもう病気の花束を持ってると言われてます。病気の花束を持ってるということはどういうことかという、抵抗力が落ちるんですね。体の中に放射能が入ることによって、抵抗力が落ちる、中から被曝することによって抵抗力が落ちるので、おなかが痛い、頭痛がするとかいっても、腹痛の薬を飲んだり、頭痛薬を飲んででも治らない。これは原因は放射能だから。だから、放射能につける薬はないんです。

子どもたちの抵抗力が落ちると、頭痛、鼻血、それから甲状腺のトラブル、それから背が伸びない、風邪が治りにくい、それから風邪をひいても治らない、治らないし、すぐ悪化する、肺炎になる、今までと違う感じ、それからリンパ節も腫れ、腎臓痛ですね。腎臓を通過して放射能が出ていくので、腎臓というのはものすごいトラブルの場所になります。フィルターになりますので。それから、ひざの裏が痛い。それから関節痛です。足がもう痛い。

これは何かというと、もう老化なんですね。見た目は、まんがでコナン君みたいに見た目は子ども、中身は何かといてるけども、見た目は子ども、中身は老人みたいになっていて、70歳、80歳の老人と同じ状態が起ってきます。ひざが痛い、糖尿病とか、そういう子もいます。あと、抜け毛、髪の毛が伸びない、それから繰り返す中耳炎、ぜんそく、それから胸部痛、心臓痛、これはセシウムがたまるし、甲状腺との関係で胸腺が何か傷んでくる（痛んでくる？）んですけども、あと、胃腸が痛い、食欲不振というのは汚染されたものを食べることによって、胃腸の粘膜が傷つきます。それから、傷が治りにくい、皮膚のトラブル、疲れやすい。

皮膚のトラブルというのは、何かすぐとびひみたいになっちゃうんです。ぐずぐずして、何というか、アレルギーになりやすいし、血が、何ていうかしら、傷をすぐ治せなくなっちゃう。だから、転んでかさぶたができなくなっちゃうとか、いつまでもじくじくして、すぐ化膿しやすくなったりとか、そういうすっきり何かが治るといふふうにならなくなっちゃうんです。

こういう状態で、例えば家族に何か不幸が起こったとか、悲しい出来事が続いたりすると、子どものメンタルの部分が下がって、抵抗力がぐんと落ちます。だから、抵抗力というのは体だけと思っただけじゃないんです。やっぱりすごいメンタルな健康も大事で、そこと両輪なんです。がくっと落ちたときに、病気の花束が一気にその人の弱いところから出てくるんです。

みんな体質、ばらばらでしょう。そこの家系によって弱いところは違うでしょう。そこのところから何かトラブルが起こってくるわけです。

だから、放射能イコールがんじゃないんです。放射能イコール抵抗力が落ちて、いろんなトラブルが起こってくると思っただけじゃないですね。

この集中力がないというのは、何か頭がぼーっとするんです。汚染地の授業は大体25分で1コマになったとってました。45分できない。子どもたちの体力も落ちてると、集中力も落ちてくるという。

私はこの間、こんなことを言ったら郡山市の人にごめんなさいなんですけど、郡山市を計って、帰った後、すごいめまいとか、吐き気とかして、本当に吐いちゃって、その後、数字を覚えるのがすごい、例えば汽車に乗ってくるんですけど、汽車の時間を何回見ても覚えられないとか、そういうふうになってくるんですね。

そういうふうになったらもうおしまいかというんじゃないで、それは何かというと、福島の人には平気なのに、何でおまえはそうなんだという、これもやっぱり放射能のことをよく知ってるせいで、自分が精神的に、あ、すごいところに入ったと思うから、余計そういうふうになっちゃうんですね。

で、わかんない人は、普通の風邪ひいたかな、何かちょっと体だるいかなぐらいに思うわけですね。でも、私はたまたま向こうに行って、自分の体調とか、あ、これはやばいなとか、そういうのを自分でわかるので、あ、入っちゃったかなとか思ったら、もう具合悪くなっちゃったんですね。だから、放射能ってそういうところもあるんです。

だけど、そういうときはゆっくり休むんですね。で、休んで、絶対無理をしない。に、三日養生して、そういうときは変な薬とかは飲まないんです。これは放射能が原因なんだから。そうすると、大体治るわけです。だけど、二、三週間後ぐらいにまたちょっと好転反応で出てくるわけですね、その傷んだ箇所が。またちょっと。でも、その最初に具合悪くなったときよりはひどくない。そうやってちょっとずつ周期で治っていくんです。

だけどそれは、ちゃんと休養しないとそういうふうにならないんです。だから、3月の27日でしたか、いわき市に知り合いの人がいて、どうしてもいわき市まで行きたかったんで、いわき市に行っただけですけど、それで、4月26日にチェルノブイリのパネル展があるんで、ほとんど寝てなかったら、甲状腺がずっと腫れてきて、それで触ったら何かピンポンの半分ぐらいあるので、みんな、病院行け、病院行けと言っただけで、でも、病院行っただけでわかんないのは目に見えてるから、もういいわ、寝るわ、寝るわって。終わって、に、三日寝たら、やっぱりちょっと腫れが引いてくるというか。

だから、やっぱり自分の抵抗力をちゃんと保つような努力をするということがとても大事なんですね。

子どもたちがこういう体調が起こっているんだったら、体育とかを無理してさせる必要もないです。校庭も汚れているんだったらね。走ったりすれば疲れるし、吸い込むから、なるべく体力温存で、なるべく休養もして、疲れやすいので、特に私は自分の症状としては頭の記憶力が落ちるというので、前にウクライナに博物館を見に行ったときに、1回チェルノブイリの覆っているやつが壊れて、何かすごい放射能が出てるときだったんですね。

で、ええとかいって、一緒に行った里親さんがキエフのまちの中を計ってたんですけど、大体0.16カウントぐらい、そのトクちゃんが言った数値ですね。地下街の中とか、あって、もう市民の人がみんな集まってきて、何やってんだって言ったら、その里親さんは日本語で、ジャポネ、ジャポネ、放射能、放射能って日本語で言ったら、みんなわかったんですよ。

それでわっと集まってきて、数字見せろ、数字見せろって言って、キエフの人たちもどんなに心配して生活してるんだろうと思って、キエフって大きい都市ですから、ウクライナの首都で、切なくなつて、もうみんな同じ人間じゃないですか。こんな心配しながら暮らして、おそらくたくさん犠

牲になってる方もいると思います。でも、それはもう個人の運命と思いなさいという感じの状態ですよ。誰も面倒見てくれないから。普通に、あなたの人生に起こった病気というふうにしてみんな闘って生きていかざるを得ない国なんですね。

そのときに、里親さんが、いや、すごい風吹いてるなとかいって、こうやって放射能検知器を冗談で当てたんですよ。したら、0.080ってなったんです。0.080？ えっ、すごい高いねって言って、私も慌てたら、0.080あったんですね。（話からすると、頭にガイガーカウンターを当てたのかと思います）

普通、0.05ですから、バックグラウンドというのは0.05以下です。だけど、機械の精度で0.05とみなすから、え、頭の中の髪の毛に入っちゃったの？というわけで、洗っても洗っても取れないんですよ。

で、ロシアのシャワーって何か水圧もなくて、ちよろちよろで、何回洗ってもやっぱり80で、そのとき髪の毛切ればよかったなと思ったんですけど、半年間ぐらいやっぱり数字が覚えられなくなっちゃった。戻ってくるんですけど、集中力がないという。

最初はね、ロシアの子、集中力ないよねとか言ってたんだけど、そうじゃなくて、被曝のせいだというのがわかって、ごめんなさいという感じだった。遊んでても、もう遊びきれなくて、すぐほかの誰かの遊びに移ってっちゃうとか、そういう子もいますよね、日本でも。で、何かそういう質なのかなと思ってたんだけど、自分でも計算ができなくなっちゃったとか、考えがまとまらないとか、疲れてるのかなと思うけど、半年ぐらいたらやっぱり治りました。

やっぱりずっとそこにいて、そういう状態じゃないので、体のそういう力を信じるためには、無理をしないということとか、食べ物にとっても気をつけていくことですね。

これは、この先生だけは皆さんもう絶対、この先生の言ってることだけは絶対なので、この先生、私、もともと市長の菅谷昭（すげのやあきら）先生、それで、△△先生、私はそこまで勝手に深読みしてるんですけど、△△先生が日本人としてすごいとても猛烈なことをやってくれましたよね。

で、この菅谷先生は、一言もそういうことは言わず、自分で単身、日本の職を辞して、ベラルーシに単身5年間行って、子どもたちの甲状腺がんの手術をずっとされてましたんですね。

日本人の医師が増やした甲状腺がんを菅谷先生が無言で尻ぬぐいされてるのかなと私は個人的には思ったんですけど、もう本当に男だなという先生です。

この先生が、マスコミで自由にしゃべることはほとんどないんですけども、ここですね、「食品に関してはこまめに放射能を測定し、安全状況をチェックしていくことが必要だ。放射性物質が検出

されても」、ここがちょっと先生も大変な中で言葉をしゃべっています。「規制値以下であれば、大人は食べていいが、乳幼児や妊産婦は控えたほうがいい」というふうにおっしゃってるんです。

こういうふうにはっきり医師としての責任をまっとうしておっしゃってる方は菅谷先生だけだと思います。これを皆さん、本当に広げていただきたい。

この先生は、自分の命をかけて汚染地の国に行って、△△先生の尻ぬぐいをしようと思って行ったわけじゃないと思います。先生はもっとすごい深い理由で行ったと思います。さっき甲状腺がんの手術の映像があったんですけど、1回で取り切らないということわざとやるんですね、向こうのお医者さんは。なぜかという、がんの手術を何回したかで医者等の等級が上がっていくという制度があるので、わざと切り残して2回とか、そういうことがあって、多分、菅谷先生はもう医師として子どもたちを救いたいという思いでもちろん行かれたと思うんですけども、あの汚染地に5年間行かれるということは、ただではないです。先生も胃がんになったと聞いていますけれども、真実を守ってらっしゃる方はいるんですね。ですので、本当にこの先生のこういう発表も命がけだと思います。

いろんな圧力も入ると思うんですけども、内部被曝というのは何かというと、これは長崎の原爆で死亡した被爆者の細胞を取ってあるんですね。この黒い線を出している、プルトニウムの線を撮影できたんです。

で、プルトニウムというのは体内に入ると、アルファ線というのはすぐ止まっちゃうので計測できないんですね。初めてこういう形で黒い線で、こういうふうに放射線を出し続けていることを撮れたという、平成21年ですから、被爆から60年以上たっても放射線を放出している様子を写真で撮れたということです。

ということは、プルトニウムというのは寿命がすごい長いですから、私たちの体に入ってしまったら、とっても大変なんですね。

どうして大丈夫なんですか。この長崎の先生にこのまま記事をコピーしてよく勉強しなさいって渡してあげてくださいよ。本当に。悔しいと思いませんか。

これは、このすばつとカッターで切ったようにDNAが切れちゃうんですね、放射能が来ると。さっき線が出てましたよね。セシウムでもそうですけど、こうやって切られるわけです。

じゃあ、切られておしまいなのかといたら、何で直ちに影響がないかかというと、私たちの体の中には酵素があるんです。おぎゃあと産まれたその遺伝子ごとに酵素を持ってるわけですね。酵素が多い人も、若干少ない体質の人もいるし、暴飲暴食、酒とかたばこをやる人は酵素がどんどんなくなっていくので、その人によって酵素が違います。

それで、この酵素、この赤いのは酵素です。酵素が出てきて、こういうのりみたいにしてくっついて、修復してくれるんです。だから、私たちの体に酵素がいっぱいあるうちは、直ちに影響は出ないんです。

これが毎日、毎日どのぐらいの量で切られて、どのぐらい再生されてるかによって、酵素がどんどんなくなっていくと、この切れてる状態で何が起こるかという、フリーラジカルという言い方をするんですけど、酸化物質が体の中に出て、すごい疲れた感じになったり、子どもたちがけど、疲労感が出てくるんですね。

そのバランスですね。体の中にあるフリーラジカルと、毒素が出ますから、それと酵素が修復するバランス、スピード、それによって発病するか、そういう微妙なバランスのもとに成り立ってるわけです。

こういうことがあると、抵抗力は落ちていくわけです、一般的に。

これは何をやっているかという、酵素を持っていったるわけです。酵素、何じゃといたら、酵素は果物の中とか、生野菜の中に入ってる、それからお味噌、それからぬか漬けとか、発酵したものに入ってるわけです、酵素ね。

それで、最初はビタミンとかミネラルも必要で、ビタミン剤を持ってきてくれと言われたんですけど、大量に持ってったんですけど、次の年にまだ残ってるんですよ。

で、何でだと言ったら、子どもたちに人気がないと。人気っていったってと、言った話と違うじゃないと思ったんだけど、考えたらそうなんですよ。子どもというのは、やっぱりおいしいもの食べたいし、それで果物に変えたんです。で、酵素とすることで、酵素とビタミン、新鮮なビタミンですね。だから、ビタミン剤とか、そういうものでは酵素が入ってないので、細胞を元気にする力がないんです、ビタミン剤には。

これも孤児院の子どもたちに、これは今、バナナを配ってるんですけど、バナナとか、リンゴとか、桃とか、ペクチンというか、何ていうのかな、ペクチン成分の多いものというのはおなかの中の放射能をくっつけて外に出してくれるんです。それで大体25%から50%ぐらいの、ベラルーシにペクチン製剤というのがあるんですけど、それでそういうデータが出ています。

そういうのを、じゃあ、日本に持ってくればいいのかというんですけど、ベラルーシの場合、添加物が多過ぎて、日本の子どもにはちょっと与えられない。サッカリンとかが入ってるので、日本でいいそういうものを作りたいと言ってくさってる方もいるので、なるだけリンゴとか、桃とか、おなかのすいたときに食べさせてあげてほしいんです。

果物というのは、おなかの中に何かあると、果物ってちょっと発酵しちゃうので、おなかすいたときに、朝一番で食べると、朝バナナダイエットじゃないんですけど、そういうときにペクチンの多

いものを食べさせてあげると、元気が、食欲がないとか、おなかが痛いとかいうときは軽くそういうものにしてあげて、酵素も入ってますから、お母さんがクッキングの力で余計なこととして煮リンゴとかしないで、酵素を殺してしまうので、すり下ろし程度にしてね。

酵素も、野菜ジュースもそうなんですけど、酵素って空気に触れたら、もう25分とか30分でなくなっちゃうんです。ジュースもね。だから、絞ってたてで、すぐぱっと飲める状態で絞って飲ませてあげるといいと思うんですけど、青汁はちょっときつかな、胃腸が弱い人には。ちょっと水で薄めてあげるとか、野菜ジュースも健康な人はいいんですけど、ちょっと胃腸が痛いとか、おなかが痛いと言ってる人は水でちょっと薄めてあげたほうがいいかもしれないです。

なるべくそういうふうにして、体の通りをよくしてあげるということで、私たちもベラルーシの子どもたちの救援というのを世界中でやってるんですけど、バナナの国ってあだ名つけられてるんですね、ベラルーシは。とにかくバナナが好きなんです。

なぜかという、私もずっと見てたんですけど、やっぱり最初に保養に来たすぐは、子どもたち、胃腸障害であんまり食べ物を食べられないんですね。胃が痛いとか、もう消化酵素がなくなってきてるので、そうすると、これはお手製の餃子とか、春巻きとかいうと、うっという感じで食べられないんです。すると、子どもたちが食べられるのというのは、バナナとか、それからトマトとか、キュウリとかをこういうふう食べるぐらいしかない。調理したもののさえも口に入らないんですね。

で、じゃあ、最初は無理しないで、じゃあ、バナナ食べなさいよという感じなんですけど、あげたら、1人で10本でも20本でも食べる。それで、去年、私は北見に住んでて4人の子どもを受け入れたんですけど、北見じゅうのバナナがなくなっちゃうぐらい、もう20本買ってもしんどくなるんですね。で、1日に4回、5回、トイレに行くとか子どもたちは言ってたんですけど、それだけ子どもというのは新陳代謝がいいので、そういうふう細胞に入れ替わるというか。

これは何をやってるかという、ボディカウンターなんです、これね。ホールボディカウンターといって、ウクライナ製で、東欧とか、ウクライナとか、旧ソ連の原発でみんな原発労働者の体内の汚染を計ってるんです。これは体の中に入ってる放射能を計るんですね。主にセシウムで、ストロンチウムはちょっと計れないんですけど、子ども、それからお姉さん、若い大学生ですね。それから、これは40代中盤以降の私なんですけれども、そうすると、この順番に意味があるんです。

一番放射能が入りやすいのは子ども、5倍から10倍、次に若い女の子が入ります。もう40代中盤になってくると、入るスピードはすごい遅いです。だから、この3人が一緒に汚染地を旅をすると、影響は全然違うんです。だから、大人と子どもは違うというのはそういうことなんです。

そして、子どものほうも、新陳代謝が早いので、出ていくのも早いです。だから、これは現地のお医者さんがもう、ここにいたら、子どもたちを助けてあげられないということと、それから、このお医者さんに、さっきトクちゃんが出て、入れない地域の奥にある病院なんですけど、チェル

ノブイリから20年たったときに、先生にとってチェルノブイリ事故って何だった？というふうに聞いた.....

(動画終了)

【野呂美加さんの講演会④】 (<http://www.youtube.com/watch?v=dSxNzfkO92w&feature=related>)

.....何回かそういうやりとりがあつて、こういうふうには、この奥さんもやっぱり高汚染地帯から移住した奥さんで移住者同士なんですけど、手紙を送ってくれて、本当に子どもの健康を思う気持ちがあった、親の気持ちが、うるさいなと思ってたけど、今、わかつたって。子どもを持ってね。そして、本当にこの子を連れてベリー摘みにも行ったり、キノコ摘みに行けないのが残念だつて書いて手紙を送ってくれたんですね。

この子たちは、私はうそを絶対つかないなと思いますよね。うそをつくというのは、放射能が体に影響がないとか、そういうことを言ってる人に、はい、はい、そうですねってついていく人ですね。でも、この子たちは絶対そういうことは言わないと思います。

私は、日本にいても、そういうことを言っても誰も聞いてくれる人もいないし、何か中途半端な感じがして、ベラルーシの人たちのところへ行くと、ほっとしてる部分はあつたんですね。放射能はあるけど、こっちのほう、こんなに放射能は大変なんだということをわかつてくれる人の中にいるほうが精神的には安定するとか、そっちは真実なわけですから、それは本当に思いました。

このアンドレイも、お父さんが消火作業のあれで、やっぱり五、六年で亡くなつちやつたんですね。で、その亡くなり方というのはがんじゃないんですよ。例えば、血圧の異常というのがあるんですけど、突然血圧が急激に上がって、急激に下がって、急激に上がって、急激に下がってという、そういうような状態になって、ぼったり亡くなったそうなんです。

で、このアンドレイ君のお母さんが、やっぱりその病気の花束を抱えている子が、お父さんが亡くなると、もうショックでショックで物も食べられない状態になって、それで、いつ発病してもおかしくないというぐらいお医者さんに言われたという、で、アンドレイのお母さんが、野呂さん、お願いだから、もうアンドレイを保養に連れてってこれないか、いや、ちょっとそんな、いろんな人数の制限あるしとか、いろいろ言ったら、お願いだ、もうお願いだつて泣いて、もう私の命をあげるから連れてってこれつていって、本当に足首つかまえるような感じで懇願したんですね。

で、もうアンドレイは2年ぐらい前に1回保養に出てるので、私たちのルールでは1回保養に出た子はちょっと難しいというふうには断つたんですけど、もうお母さんから、命を持ってつてくれみたいなことを言われて、私ももう絶句したんですね。

それで、本当に生活も大変で、子ども、このままアンドレイが本当に亡くなっちゃうのも嫌だし、新しいそういう3カ月保養というシステムを作って、12年ぐらい前にそういうのをやってやりました。で、日本語をその代わりに覚えてもらって、みんなの通訳をやりなさいよという、そういう役割はありました。たまたまこの子はそういう語学のセンスがあった、役割を、お母さんの話を横で聞いてましたから、私の命をあげるから連れてってくれという話を横で聞いてて、じゃあ、その代わりに、あんたのミッションは日本語を3カ月で覚えるというミッションだったんですけど、覚えましたね。

私、この親子の根性にはかなわないと思ったんですけど、で、これはお母さんですね。恋人じゃないんですけど、お母さん、若かったですね。二十歳で妊娠して 本当にアンドレイのお父さんもレスキュー隊で亡くなったんですけども、何か本当に私は消防士さんたちとか、自衛隊の方に千羽鶴を持って行って、東電さんは別の裏ルートで渡してるんですけど、まだ渡ったとは聞いてないです。自衛隊の方は、本当に福島の下に渡したって言ってました。

で、アンドレイが大きくなって、お父さんみたいに国を守る人になりたいって行って軍隊に、学校に入ったときに、一番の健康児だと言われたと行って、お母さんが泣いて私たちに、一緒に子育てしてくれてありがとうというふうに言ってくれたんですね。

で、本当に私たちも息子のように思っています。やっぱり3カ月の保養というのは、彼の場合は2回やったのかな。

これは保養から帰ったところ、ちょうどお母さんたちと1カ月ぶりに子どもたちが、1カ月、外国、言葉も話せないところでよく頑張りましたというか、もう本当に子どもたちもいっぱいいっぱいなんです。

これは政府の言ってるレントゲン1回浴びる程度だからというのは、うそなんです。うそというのは、レントゲンは瞬間だけなんです。でも、レントゲンを浴び続けてる状態なんです。この何、何マイクロシーベルトはレントゲンと同じですよじゃない、レントゲンは瞬間ですよ。でも、今、24時間それを照射されてるのと同じ状態になってるわけですから、高汚染地帯の人は、子どもたちをすぐさま移動しなければいけないんです。

とにかく抵抗力が落ちるんですから、これはレネット(?)って、キャンディ・キャンディって昔、漫画があったんですけど、その原作者の方が保養運動のことをちょっと小説に書いてくれたんですけど、リンゴの、さっきペクチンのお話をさせていただいたんですけども、そういう、彼女はまだそこまでの話は知らないで象徴的な子どもの持ってきたレネットというリンゴのお話を書いたんですけども、リンゴが最後、そういう形で子どもたちを助けてるんだよなと思いついて見ました。

これは札幌でよくやってるんですけど、ここをもうちょっとガムテープでとめて、女性の方はシャワーキャップをちゃんとかぶって、そしてこういうところもガムテープでとめて、これは下も雨合羽のズボンをはいてるんですけど、ここにゴム手袋をかけて、ガムテープでこうくるんで、そうい

う形にすれば、もし何か避難しなきゃいけないような場合は、こういうものをして、それは防護服と同じになるんで、とりあえず避難所に着いたらこれを脱ぐという形で、絶対肌に付けない、吸い込まない、それから食べ物から体に入れないという鉄則ですね。

特に慢性の、ちょっと話は戻るんですけど、慢性の症状の場合、風邪ととてもよく似てるんですね。だから、今、日本のお医者さんはそういう慢性病の子どもを診たことないですから、多分、病院に連れてってても風邪だと言うと思うんです。

それからもう1つ、チェルノブイリでは、こういう、さっき病気の花束の子どもの図があったんですけども、そういう子どもたちの血液異常というのはなかなか出ないんです。血液での異常というのは出ないと言っていました。ただ、貧血気味とか、そういうのは出るけれども、血液を採っても、何が異常というふうには出てこない、ただ子どもたちの症状として、そういうふうに出てくるといって、身体自覚症状ですね。子どもはあんまりそういうふうに分かることを言わないんですよ。どこがどういう状態であるとか、こういう、おれは心臓痛だからさとか、何となくちょっと痛いから、おなかが痛いともあんまり言わないんですよ。何かぐずってみたりとか。で、それで血液採っても、血液検査に異常がなくて、風邪ですねと言われて薬出しておしまいなんです。

だから、それよりは、やっぱりちょっと自分でお母さん、危ないなと思ったら、放射能のないところに連れていくとか、きれいな食べ物を食べさせるとか、そういう注意はやっぱり必要だと思います。

大人の症状なんですけれども、大人も同じような症状があってもおかしくはないです。大人の場合、自律神経失調症とか、睡眠障害、これはみんななってると思います。あと、心臓が痛いとか、血圧ですとか、同じですね、ほとんど。あと、風邪が治らない、それからだるい、これは何かというと、これがずっと慢性化しちゃうということなんです。

放射能というのは、慣れちゃうんですよ。直ちに影響はないというのは本当なんです。慣れちゃうんです、その状態に。というのは、ずっと体がその修復をやり続けるわけです。DNAが切れたら酵素が出てということに慣れ続けて、酵素の蓄えがなくなったとき、発病しますから、だからそんなにそんなに大人であっても放射能に自分をさらしてDNAを切られ続けることというのはよくないんですね。

ですので、お休みがあったら、なるべくちょっと放射能の低いところに移るだとか、そういう注意は大人でも必要です。だって、親が倒れたら、子どもはどうしますか。ものすごい孤児が増えてましたよ、向こうで。

胃が痛いとか、食欲不振とか、頭痛、体がだるいとか、むくむとか、口の中に口内炎ができてなかなか治らないとか。

お医者さんはなかなかその見分けがつかないです。血を採ってもそんなに変わらないし、お母さん、神経質だよと、そういうふうに言われて。

お年寄りのお医者さんなんかはそういうふうにするかもしれないですよ、あんまりわかんないということは。特に、お年寄りで元気な人はよくわからないかもしれない。いるんですよ、お年寄りで元気な人というのは、そうすると、放射能が入るのも遅いし、抵抗力のない人は、何か体力落ちたなという感じがすると思うんですよ。でも、お年寄りで元気な人だと、放射能は入ってこないわ、前とそんなに変わらないで、若い連中が何かごちゃごちゃ言っていると、何か気力がないとか、根性がないとかという話になると思うので、これは体感していくレベルなんでね。

ちょっと放射能のないところに行くと、体からいっぱい毒素が出てきます。白河市の子かな、ちょっと1週間ぐらい網走で保養にいらしてたんですけど、子どもたち、何か吹き出物みたいなのがいっぱい出てきてました。チェルノブイリの子どもたちもそうなんですけど、とびひとか、皮膚がまず弱くなるので、そういう毒出し、そういうのはやっぱりあるねって、同じ症状を出してました。

ちょっと一気にしゃべっちゃったんですけど、質問とか、こちら辺で一回。何かないですか。

質問者 保養のときは基本的にEM・Xでしたっけ、それとペクチンとかをたくさん食べるという療法が中心だったんですか。

野呂 基本的に、日本での普通の生活というのがまず大事なんです。まず私たちがやるのは、子どもたちを笑わせること、で、何かこういうことを言うと嫌だなというのは、長崎の〇〇先生が笑えば放射能が抜けるとか言ってるんだけど、放射能が抜けるから笑うんじゃなくて、笑って抵抗力を上げるとのことね。

で、その子どもたちがいる地域というのは、親も暗い顔をしてるんですよ、もう。どどめみたいな顔をして、もう自分も具合悪いし、先も見えない、未来もないし、みたいな感じで暗いところから子どもたちは来てるので、まずメンタル分を明るくしようというのが第一なんです。

それから補助的に、EM・Xゴールドというのは、これは子どもたちの抗酸化力を高めるので、それは飲ませましたけれども、食事は、最初はやっぱりそういう軽いものしか食べられないので、バナナとか、トマトとか、キュウリですよ。で、中盤戦、元気になってきたら、白いご飯とか、鮭とか、普通の日本食を食べさせてます。もちろんバナナ食べたいとか、果物食べたい場合は、新鮮な野菜はすごいたくさん食べてほしいので、そういうのは食べさせてます。

だから、なるだけ日本の普通の生活をしながら、そういういいもの、で、すごい食べ物を気をつけるお母さん、いるんですけど、これは放射能にいいとか、悪いとか、だけど、ごみみたいなお菓子食べさせてるんだよね、それと同時に。駄菓子とか、スナック菓子ね。とか、チョコとか、あんなのはもう健康にいいとか、悪いとか以前の話だから、そういうものを食べると、抵抗力落ちますよ、元気でも。何かポテトチップスとか、スナックとか、何か揚げたお菓子とか、ああいう類は、

そういうふうになったら食べさせないことです。凌駕できないです。それも酸化物質ですから、既に揚げたお菓子は酸化してるから、体の中の酵素を奪うんですよ。だから、いいものも与えたいけど、悪いものも入れるのもやめてください。

だから、しばらくは牛乳を控えるというのは当然です。どこからでも入り込みます。汚染された牛乳をシャットアウトできる法律になってないでしょう。基準が緩んできているということは、一番よくないんです。基準をどんどん厳しくすればするほど、世界から信頼を得られるんです。でも、ここまでいいでしょう、ここまでいいでしょうってやってるのを世界中の人は知ってるんです。

私もフランスの記者からメールで問い合わせが来ました。そういうものはどういうふうに見てるんだという、福島県産の野菜をみんなで買って応援してるのを、あなたたちはどう思うんだと。それはいつきの感情でしかないって私は書きました。それは世界中からのひんしゆくになってるんです。

それは福島の人のことを責めてるわけじゃないんです。日本全体の放射能に対する姿勢が問われてるんですね。

基準を緩くして、何でも食べましょう、ここまで大丈夫、ここまで大丈夫ってやってるのは、同情的な感情がある人でしか共有できないんです。

外国の人は関係のない話なんです。だからイタリアとフランスでは、日本の食品はもうストップになってるんです。そこまでして食べるお義理はない。

そういうことじゃないんです。すごい厳しくすることで、安全な食べ物が手に入るんです。緩めることで、みんなが逃げていくということはどういうことが起こるかということ、風評被害が起こるんですよ。

チェルノブイリって、ベラルーシでも10年前から食べ物の調査はもうやらないですから、ベラルーシの方たちが、私たち、子どもたちの軍資金とか、募金で集めてるのを知ってて、募金集めるの大変でしょう、ベラルーシのチョコレートとか、ウォッカとか、買って持って行って、日本で売ったらどうって、とてもおいしいでしょうって。

確かにおいしいですけど、放射能チェックはしてないとか、基準が緩い国のものを買ってって、もし万が一ちょっとでも放射能が出たら、日本人、激怒しますでしょう、当時は。今はみんな緩まってるけど。そんなもん、気持ち悪くて買いたくないでしょう、事故後25年たっても。25年たっても気持ち悪いです。

だけど、今、日本で起こってることは、同じようなことをやってるわけです。大丈夫です、大丈夫ですって。それは日本人の情念として大丈夫なだけであって、外国から見たら、もう絶対買いたく

ないと思うわけ、巻き込まれたくないと思うわけ。そうすると、日本の経済がどんどん落ちてくんですよ。

どうなるかという、チェルノブイリも経済が落ちたでしょう。経済が落ちたら、年金は無価値になるんです。老人の生活がまず不安定になるんです。経済が落ちるといのは、日本の円の価値が下落するということです。100円のもので買えるものがなくなっていくということです。

私たちは子どもたちの救援を始めてから、ベラルーシの貨幣価値がどんどん下落して、子どもたちのチケットを買うときに、スポーツバッグいっぱいベラルーシのお札を詰めて、そうやって銀行に持っていったことあるんですよ。下落して、いくらお札があっても足りなくて。それを銀行の人が1枚ずつ数えたりするぐらい下落する。それぐらい国の信用が落ちることなんです、そういうことをやると。

でも、今、取り繕うために、私たち外の人間というか、福島県外の人間から見たら、福島県の人を犠牲にして、とりあえず原子力産業の温存を続けてるだけだなと思います。

質問者 長崎、広島は結局、人体実験だったんですよね。それで、福島県も何か大丈夫だ、大丈夫だといって、結局、福島県の人たちに避難させないようにして、長期的な大規模な人体実験なのかなってまで思っちゃうんですけど、そういう意味ではどう思いますか。

野呂 結果的にそうなるかもしれないですね。そのデータを外に出さなければ。データになるんですよ、皆さんの血が。

質問者 それで、何かもう既に長期的に健康状態とか、そういうのをやっていきますよともう言ってますし、長崎、広島だって、もう60年以上も結局データの的に調査してて、結局はABC Cという今も残ってる、さっき言った△△さんが理事長をやってたABC Cに関しても、結局は被曝した人を助けるのが、治療するのが目的ではなくて、どれだけデータを切ったか(?)ということで、何か私の思いは、福島県民自体がはっきり言って人体実験のそういうふうな現場になって、結局、福島県産の地元でも消費しちゃっても(?)、そういうふうに長期的なそういう感じになってるのかなと思うんですよ。だから、逃げるといっても、結局、逃げられる人たちは避難してるけど、残ってる人たちは結局、政府以上の国際的なモデルとかじゃないか、はっきり言って避難所と言われてるのも、あそこでも結構子どもたちに精神安定剤を飲ませて眠らせてたりとか、結局、マスコミとか、全然その報道しないのも、非人道的なこと、起こってますから、そういう、健康な子どもたちにも精神安定剤を投与してること自体も何か本当に恐ろしいことで、そういうときに限って製薬会社が結構、差し金で、何か されてるのかなとも思ったりするし、それは事実なんですよ。養護学校の避難所で、子どもたちが夜泣きしたり、騒がしいと、ほかの人が迷惑するからって、健康な子どもたちに強制的に何か精神薬を飲ましてるという事実もありますし。だから、そういう本当の何かもっとちょっと怖い、そういうのがあるんじゃないかなって思うんですよ。

野呂 この問題というのは、やっぱり私個人の思いですよ。やっぱり今、何でここに来てるかといったら、やっぱり怖いですよ、この数値見たらね。私、それは伝えたいなと思ってるんです。

それで、やっぱりみんなで言ってほしいの。これはベラルーシの人たちはこういうことさえも知らなかったし、放射能があるということも知らなかった。何も知らされてなかったし、ただ5年間も6年間も、日本人が安全ですよって言って信じてた人たちもいたし、日本人の広島 of 医者が言ったんだったら大丈夫だといって信じてるでしょう。で、今、長崎の医者が大丈夫だって言って信じてるでしょう。

だけど、やっぱりそれは事実じゃないということは伝えたいなと思ってるんです。

それから、自分たちの今、起こっているの、これは政治だから、エネルギー政策ね。これは変えることができます。今、自分たちのこの現状を。議員さんとか、それから市議とか、そういう人たちをつかまえて、説得したりして、変えていかなきゃいけないんだなって。私がかこの住民だったら、それはすると思う。だって、共産主義国じゃないんだもの。そういうことをする人たちもいるし、本当に。

子どもたちだって、あのジンマ(?)たちだって、ずっと血液のデータを取られてました。だけど、治療はしてもらってない。治療だってできないし、放射能が原因の場合。

だけど、外の世界とつながって、それで、ここで血液検査しないで、外でしたらいいと思う。このデータ、自分のデータね、悪いけど、これ、あたしのDNAだから。

勝手にね、通りを歩いてて、泥水ぶっかけられて、体に影響ないから大丈夫ですよって言われてるのと同じなんですよ。腹立ちませんか。

それで、その泥水の中に放射能が入ってて、いや、体に影響ないから、大丈夫だから、そのまま歩いていけて、何事ですか、勝手にかけておいて。失礼でしょう。

そういうこと、同じことが起こってるのに、自分たちで失礼と思ってるないでしょう。このぐらいまでだったら我慢しなきゃと思ってるんじゃないんですか。

我慢する必要ないでしょう。はっきり言って、日本国民みんな助けたいと思ってるんですよ。でも、福島の人動かぬと言われてる。どうしてかは私もわからないです。

質問者 　　というか、戦時中の言論統制みたいな感じで、結構、放射線に対して敏感な反応とか、批判的なことを言うと、何言ってるの?という、ちょっとばかにされるような風潮も出てはきてますよね。だって、もう仕方ないでしょうみたいな感じで。だから、本当に真剣に、もう大丈夫なの

かと言うと、反対にそれがもう非国民（笑）、戦時中で言えば、非国民みたいな感じで、そういう風潮だから、何も言えないで、もう黙ってるしかないというか、そういう感じも。

野呂 やっぱり今、笑ったでしょう。で、何をやるにしても、やっぱり笑いを入れてかないと駄目なんだよね。変にお笑いの番組を見て同調するとか、そういうことじゃないのね。非国民って言われるんだというぐらいの明るさがないと、もうみんな逃げてっちゃうの。

昨日も札幌でお話ししたときに、もうお母さんたちが真剣になって、泥遊びさせていいかとか何とかって、うちの子はマスクしないとか言ってたんだけど、あんたの顔のほうが放射能より怖いよって言って。（笑）子どもにとってはそっちのほうが毒だよとか言ったんだけど、やっぱりそういうのだと、人が逃げてくんですよね。だから、私たちもある意味、精神的に、本当につらいことなんだけど、精神的健康を保ってないと、確かに嫌なことなんですよ。私も今日、こういうタッチで話をするのは嫌なんですよね。本当に何を言いたいかという、もう本当に私たち20年かかわって、何が放射能に……（動画終了）

動画はここで終わりですが、できることをしっかりやって、あとは大きく構えて笑おうと言いたいのかなと私（文字起こしした人）は思いました。